

ビジョンをもつ
ためのステップ自己評価
シート

OFF-JT

研修の活用

多様化する教育課題に対応するためにも、教員は、その専門的知識・技能を向上させるために学び続ける必要があります。教員が探究力を持ち、学び続けることにより、知識・技能を絶えることなく刷新し続けることがとても重要なことです。

ここでは、教員一人ひとりが自らの資質・能力を向上させるための方策について、「**ビジョンをもつ**」「**研修を効果的に活用する**」「**OJTの中で学ぶ**」の観点から解説していきます。

資質・能力向上のビジョンをもつ

教員が備えるべき資質・能力には、基本ベースで誰にとっても必要なものと職場で与えられた役割において必要なものや、教員としてのライフワークとして必要なもの等があるでしょう。いずれにしても、短期、中・長期においてどの資質・能力を伸ばしていくべきか、自分なりのビジョンをもつことが大切です。これは状況に応じて変化していくものです。

課題を共有する

ビジョンを定める際には、管理職、指導教員（初任者の場合）、メンター、あるいは校内の教科や委員会などのメンバー間で課題を共有することで、学校のめざす方向と合致しやすくなります。

- ◇初任期教員は指導教員やメンターと相談しながら現状と将来の方向性を共有します。
- ◇ミドルリーダーとしての役割を期待される場合、管理職と相談しながら考えていきましょう。
- ◇教科や校内委員会で何らかの取組みを計画している場合、それに伴って関係のメンバー間で互いに情報交換し、学び合うためにも課題の共有をしましょう。

ビジョンをもつためのステップ

現在の自分自身を見つめ、どのような資質・能力の向上をめざしていくべきなのか。

「OSAKA教職スタンダード」と「自己評価シート」※¹（27ページ参照）を用いて考えてみます。

※¹「自己評価シート」とは、教員一人ひとりが自分の資質・能力向上のビジョンをもてるよう作成したツールです。

① 現在の自分の力を客観的に分析

▶「教職スタンダード」を使って、各項目での自分の“現在位置”を確かめます。

② 教員としてのキャリア、校内での役割、高めたい資質などを整理

▶特に高めたい（高めることを期待されている）項目を絞り込みます。

③ 中・長期の見通しを立てる

▶現在の力（①）を踏まえ、何年以内に教職スタンダードのどの位置をめざすのかを見通します。

④ 今年度の具体的な研修目標を立てる（短期目標）

- ▶ 中・長期の見通しからさらに具体的な今年度の目標を設定します。
- ▶ Plantや研修一覧（別冊）や教育センター研修案内を参照し目標にかなう研修を選択します。
- ▶ 外部機関実施の研修（いわゆる承認研修※²や自主研修）を利用してもよいでしょう。

⑤ 成果と課題を整理して、次年度に向けた取組みを考える

▶年度末には、1年間の成果と課題を振り返り、次年度の取組みを考えます。

※² 教育公務員は所属長の承認を受けて、職務専念義務を免除されて研修を受けることができます。
ただし、研修内容は教員の職務遂行と密接に関係し、教員の指導力の向上につながるものであることが必要です。

教育公務員特例法

第22条 2 教員は、授業に支障のない限り、本属長の承認を受けて、勤務場所を離れて研修を行うことができる。